研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テ	-ーマ 和文) AB	環境教育と学力向上を一体的に推進する環境教育モデルの構築							
研究テ ()	-ーマ 欧文) AZ	Development of Environmental Education Model which promote Environmental Education and Academic Ability in an Integrated Manner							
研究氏 代表名者	ከ ሃ ከታ cc	姓)オギハラ	名)アキラ	研究期間 в	2009 ~ 2010 年				
	漢字 CB	荻原	彰	報告年度 YR	2011 年				
	□-7 字 cz	Ogihara	Akira	研究機関名	三重大学				
研究代表者 cp 所属機関・職名		三重大学教育学部・教授							

概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)

環境教育と学力向上を一体的に推進するモデルを開発するため、日本及びアメリカで環境教育を通した学力向上に成功している学校の教師及び行政関係者へのインタビュー調査と文献による調査を行った。

日本では三重県いなべ市の教師と校長、教育委員会職員、長野県長野市、長野県駒ヶ根市、長野県小海町、千葉県松戸市の教師に対してインタビューを行った。

アメリカではメイン州ポートランド、コロラド州エステスパークの教師と校長に対してインタビューを行った。 上記のインタビュー及びすぐれた環境教育実践についての資料から、学力向上と環境教育の関連を分析した。 その結果、環境教育を通して学力向上を実現している実践には次のような共通の特徴があることが分かった。

1 環境教育は学力向上に結びつく「学びの基礎」を育てる効果がある。

環境教育は学力の基礎となる資質を育てることによって、学力向上に貢献している。具体的に言えば、環境教育、たとえば森林の調査と、調査結果の発表、地域社会への働きかけを通して、「自分にも何か違いをもたらすことができる」という感覚が芽生え、自尊感情と主体性が形成されていく。また環境教育のプロジェクトを通して、生徒相互、生徒と教師、生徒と地域社会の人々との連帯感が形成され、「私は1人ではない」という感覚が育つ。このような自尊感情・主体性・連帯感の育成はとりわけ低学力の児童生徒に学習への強い動機付けをもたらし、学校の荒れを克服し、結果的に学力の向上につながっている。

2 環境教育は「学習には意味がある」という感覚をもたらす

学校教育では言語、数、自然科学、社会科学等が教科に分けられ、体系立てて教えられるが、児童生徒、とりわけ低学力の児童生徒には学ぶことの必然性が感じられない場合が多い。結果としてそのような児童生徒が問題行動を起こし、学校に荒れを招いていることがある。自然の再生、汚染の減少などのように明白な目的の下、共同的に取り組む環境教育プロジェクトは「学習には意味がある」という感覚をもたらしている。一方で、木の高さを知るために比例の概念を使ったり、ホタルの幼虫の成長を知るために平均体重の概念を使う、ウェブ上での発信のためにコンピューターのスキルを身につけるなど、学習の過程の中で、必然的な形で知識を学ぶことができている。

キーワード FA	環境教育	学力	主体性	共同性

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード ℸ△			研究課題番号 🗚					
研究機関番号 AC			シート番号					

角	発表文献(この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。)										
雑誌	論文標題GB	危機に立つ生徒達のための学校一米国イーグル・ロック高等学校の教育一									
	著者名 GA	荻原 彰	雑誌名 GC	三重大学附属教育実践総合センター紀要							
	ページ GF	31~35	発行年 GE	2	0	1	1	巻号 GD	31 号		
雑誌	論文標題GB										
	著者名 GA		雑誌名 GC								
	ページ GF	?	発行年 GE					巻号 GD			
雑	論文標題GB										
志	著者名 GA		雑誌名 GC								
	ページ GF	~	発行年 GE					巻号 GD			
図書	著者名 на										
	書名 HC										
	出版者 нв		発行年 HD					総ページ HE			
図書	著者名 на										
	書名 HC										
	出版者 нв		発行年 HD					総ページ HE			

欧文概要 EZ

In this research, I tried to develop environmental education model which promote environmental education and academic ability in an integrated manner. Therefore, I interviewed teachers and administrators succeeded in academic development of students through environmental education. And I examined relationships between academic development and environmental education.

I interviewed teachers and administrators of Inabe City in Mie Prefecture, Nagano city and Koumi Town in Nagano Prefecture, Matsudo City in Chiba Prefecture. And in USA, I interviewed teachers and administrators of Portland, Maine and Estes Park, Colorado. I analyzed these interviews and resources offered from interviewee. And I found these successful experiences have two characteristics in common. That is:

- 1. Environmental Education is effective in nurturing basis of academic ability. For example, if student investigate the local forest, and have the presentation of the result, and appeal to community, these processes bring a feeling: "I can make the difference" and strengthen student's self-esteem, independence. These processes bring a feeling: "I am not alone" and instill togetherness in student, teacher and community. Self-esteem, independence and togetherness foster motivation to learn, especially for low-performing student. As a result environmental education prevent breakdown in discipline and improve academic ability.
- 2. Environmental education gives students a realization of meaningfulness of learning. In school, knowledge is divided into several subjects, math, language, science and etc. But in this situation, many students, especially low-performing students don't feel the necessity of learning and they are prone to delinquency. In environmental education project, student share one obvious goal in common and collaborate with other students. These processes bring a feeling: "this learning is significant". And in these processes, students' activities seek to achieve a goal inevitably lead to acquirement of knowledge which is useful for achieving a goal.